

第1問

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の（ ）の中に記号で解答すること。なお、消費税は指示された問題のみ考慮すること。

1. 商品 ￥300,000（本体価格）をクレジット払いの条件で販売し、信販会社へのクレジット手数料（本体価格の5%）は販売時に計上した。なお、消費税の税率は10%とし、税抜方式で処理するが、クレジット手数料には消費税は課税されない。

ア. クレジット売掛金 イ. 売上 ウ. 支払手数料 エ. 仮受消費税
オ. 仮払消費税 カ. 租税公課 キ. 現金

2. (1) 会社の設立にあたり、定款で定めた発行可能株式総数12,000株のうち3,000株を1株当たり ￥60,000で発行し、普通預金に全額の払込みを受けた。なお、会社法が定める最低限度額を資本金として計上することとした。

(2) 上記(1)の会社設立準備のために発起人が立替払いをしていた諸費用 ￥700,000を普通預金から振り込んだ。

ア. 資本金 イ. 資本準備金 ウ. 普通預金 エ. 当座預金
オ. 創立費 カ. 開業費 キ. その他資本剰余金

3. 決算にあたり、その他有価証券として保有している静岡商事株式会社の株式（取得原価 ￥630,000）を、決算日の時価 ￥750,000で評価し、全部純資産直入法により処理する。なお、法定実効税率30%とする税効果会計を適用する。

ア. その他有価証券 イ. その他有価証券評価差額金 ウ. 繰延税金資産
エ. 繰延税金負債 オ. 法人税等調整額 カ. 有価証券売却益 キ. 有価証券評価益

4. 5月1日に米国の仕入先から商品30,000ドルを掛けで仕入れ、この時の直物為替相場は1ドル ￥108であった。本日6月10日に、この掛代金の支払いに充てるため、取引銀行との間で30,000ドルを1ドル ￥110で購入する為替予約を締結した。振当処理を行うこととし、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として処理する。なお、6月10日の直物為替相場は1ドル ￥107である。

ア. 売上 イ. 売掛金 ウ. 仕入 エ. 買掛金
オ. 為替差損益 カ. 前払金 キ. 前受金 ク. 当座預金

5. 当社は、年2回（6月および12月）にそれぞれ半年分の賞与を従業員に支給している。支給対象期間は、6月に支給される賞与は12月から5月、12月に支給される賞与は6月から11月である。本日（X1年3月31日）は決算日にあたり、X1年6月に支給される賞与の見積額 ￥12,600,000について、月割計算により賞与引当金を設定する。

ア. 賞与引当金 イ. 賞与 ウ. 賞与引当金繰入 エ. 現金
オ. 未払金 カ. 当座預金 キ. 給料